



横浜市立一本松小学校

12月号

学校だより

令和元年 11月 29日
横浜市立一本松小学校
校長 小原 健人

本物にふれる

校長 小原 健人

11月15日（金）、16日（土）の後期オープンスクールには、多くのご来賓の皆様、地域の皆様、保護者の皆様にご来校いただき、ありがとうございます。とくに16日（土）に、新たな形で行われた学習発表会には、子ども達の発表する姿に大きな拍手や温かい励ましのお言葉をいただいたことに深く感謝申し上げます。

さて、11月21日（木）に関内ホールで行われた「令和元年度 心の教育 バレエの世界」に私も4年生と一緒に鑑賞してまいりました。これは横浜市が今年度から行っているもので、主催が市の教育委員会を対象は4年生です。演目は東京バレエ団による「ドン・キホーテの夢 2109」というものでした。私自身、これまでバレエを鑑賞する機会はありませんでしたが、その迫力に圧倒されました。鍛え抜かれた踊り、小学生が見ても分かるように工夫された台詞、優雅な音楽も相まって、表現された世界は本当にすばらしかったです。

また、13日（水）には6年生が「こころの劇場」の鑑賞に県民ホールまで行ってきました。これは劇団四季によるファミリーミュージカルで、タイトルは「カモメに飛ぶことを教えた猫」です。劇団四季の伸びやかな歌声、よく通り聞き取りやすい台詞、すばらしい舞台装置、笑いも笑いながら最後は涙なくしては見られないストーリー……。6年生も引率した職員もとても感動していました。

さらに、少し前になりますが、5年生は「心の教育 ふれあいコンサート」を鑑賞しています。横浜が誇るパイプオルガンを有する横浜みなとみらいホールというすばらしい会場に、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の皆様によるチャイコフスキーやバッハ、エルガーらの名曲が響きました。大音響が消えゆく時に空間に残る余韻、少しの静寂のあとの大きな拍手、会場が一体となったアンコール。コンサートホールだからこそ味わえる貴重な体験でした。

このように4年生、5年生、6年生という3つの学年で、日本でも有数の芸術に触れる機会が横浜市の公立小学校にはあります。教育委員会が「子どもたちの心豊かに生きていこうとする資質や能力を育むために、本物の文化・芸術に触れる機会を増やし、充実させていく」と言っている通り、子どもたちの心が豊かに育っていく行事があるということは、子どもたちにとって幸せなことだと思います。

「本物」の豊かな表現を味わい、芸術に関する感性が磨かれた子どもたちは、自分の表現を質の高いものとしめます。前述の通り学習発表会は新しい形を迎えましたが、どのクラスの発表も、相手意識のある、質の高いものでした。発表を聞いてくれる人の反応を見て、もっと伝わるようにするにはどうしたらよいか、喜んでもらえるにはどうしたらよいか考え、試行錯誤しながら短い時間で成長する子どもたちの姿が見られました。これらは生活科・総合的な学習の時間を中心とした日頃の学習の成果でもあり、上級生の発表を見て「あぁなりたい」という憧れでもあり、「本物」に触れた磨かれた感性でもあります。

今年も早いもので12月を迎えます。一年をしっかりと振り返り、来年に生かしながら新しい目標を立てていきたいと思えます。

今月もご支援ご協力のほど、よろしくお願いたします。